

特別支援学級にタブレット端末を寄贈

28日、区役所に株式会社ベストサポートシステムズの石塚雄剛(いしづかゆうごう)代表取締役らが訪れ、50台のタブレット端末の寄贈が行われました。このタブレットの寄贈は、平成28年・29年に続き3度目で、杉並区立小・中学校の特別支援学級で、活用していきます。

株式会社ベストサポートシステムズ(中央区銀座3-11-1)は、2001年11月創業で、高速データ通信の環境整備や無線LANの設計・施工などを手掛けています。会社の発展とともに、何か社会への貢献ができないかと、始めたのが自社で整備をしているIT環境を活用するタブレット端末の寄贈につながりました。

最初のタブレットの寄贈は、平成28年で150台でした。この寄贈によって、杉並区では130台を杉並第十小学校、20台を済美教育センターで活用することとしました。また、寄贈を行ったベストサポートシステムズの社員150名は、自分たちの会社が地域社会に貢献しているという誇りを持つことができ、社員の結束は高まり、業績も伸ばすことができたということです。こうしたことから、平成29年・30年も同社から杉並区へタブレットの寄贈が続いています。今年は昨年同様の50台で、阿佐ヶ谷中学校に27台、済美小学校に23台を配置することにしています。

杉並区ではICTを活用した授業改善に取り組んでいて、平成26年度には全区立小中学校の普通教室に電子黒板付プロジェクターを配備しています。特に、特別支援教育の中では、タブレット端末の効果は大きく、指やペンで書いた内容を文字変換したり、音声で読み上げたりするソフトを活用することで、一人一人の特性に応じた学習ができるようになっていきます。



28日、区役所では、同社の石塚代表取締役と井出隆安教育長が出席して、タブ

レット端末の贈呈式が行われました。石塚代表取締役は、「子どもたちの教育環境の改善に役立てられるよう、これからも頑張りたい。」と話していました。

【問い合わせ先】

教育委員会事務局特別支援教育課： 電話 03-3311-1921